

MARUMO LIGHTING NEWS

■ 1975-1・Vol-21

見飽きた。夢は、どんな風にも在る。
持ち飽きた。明けても暮れても、につけても、街々の喧噪だ。
知り飽きた。差押へをくらった命。
——あゝ、「たは言」と「まぼろし」の群れ。

出発だ、新しい情と響とへ。
〈アルチュール・ランボオ・小林秀雄譯“出発”より〉
永くごぶさたしていましたが、今回から少々内容をステップアップして、再出発します。以前に変わぬ御愛読を！



たのしい舞台照明(舞台照明技法) 演出と照明(その1)

牛丸光生

演出と照明の関係は、光を演出する照明と劇の演出による照明とがあります。前者は文字通り「光」を演出する照明技法ですし、後者は劇表現の演出意図による照明のことです。

この項では、前者の「光」を演出する照明から話をすすめます。

ことです。光をぼかすために、フィルターに半透明のNo.#00のフィルターを重ねて使用すると効果的です。

1. 光を演出する照明技法

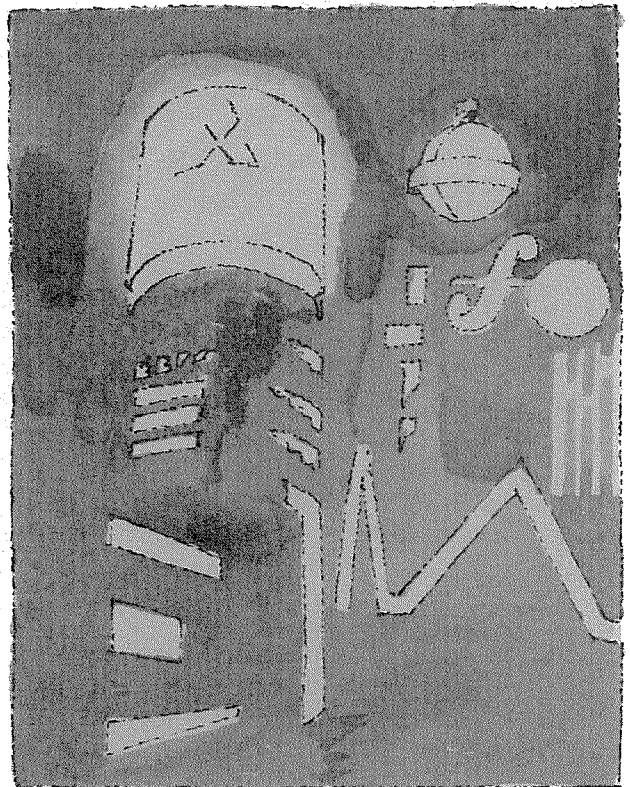
A. 点滅

舞台照明で扱う点滅には点灯、消灯、点滅の技法があります。スポットライトを点灯するのも、電柱の電灯を消灯するのも、すべて点滅の技法といえます。

点滅そのものでは、都会のネオンやイルミネーション(電飾)があります。直接にネオンや電飾をみせる場合は別として、間接に見せる場合、例えば窓の外、街の広場、橋の傍など、多く使用されることがあります。

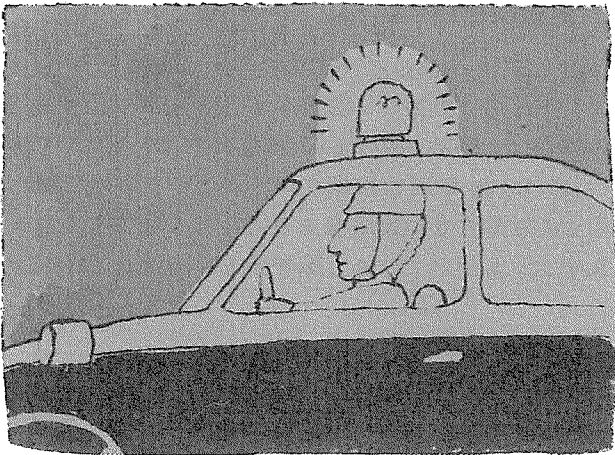
ネオンや電飾の効果を出すには、ステージスポットライトを2~3台、劇の内容に応じて、原色から中間色までのフィルターで処理します。背景やホリゾンによって、色光が変わるので、間違っても火車やパトカーにみえないことが、必要です。

更に注意することは、直接に背景やホリゾンや壁面、あるいは窓に照射しないで、半間接的に投光する



劇の表現に伴って、点滅の効果を早めたり遅くすることも出来ます。現代劇にはネオンやイルミネーションが背景となることが多いので、技法をマスターすれば、たのしいあかりが作れますよ。

次に、パトカーや緊急自動車、工事現場等の赤、黄のバトライトですが、これは市販されているものを使用することも考えられますが、舞台上で間接に効果を出す場合、やはりステージスポットに、赤や黄のフィルターで、効果を出します。実際には点滅ではなく回転しているのですが、舞台照明としては点滅の効果で充分です。この場合、注意することは、実際の回転灯としての計算をして下さい。勿論、劇の効果上、早くしたり、遅くすることも自由です。むしろその方が、照明演出として、ネライは的中です。



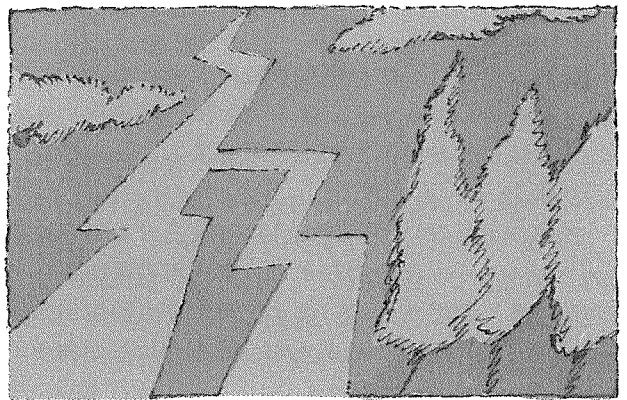
自然現象の点滅には、星、稲妻等があります。星は、星球を使用して作るのですが（詳しいことは「光で描く自然現象」で説明します）、星がきらめく、きらめく星座等と言って、歌にも唱われているので、やはり星は点滅しているのです。この場合、脚本の指定は別として、いかにも点滅してみせるために星を吊ったパイプを、静かに動かすのです。すると、アアラ不思議、星が点滅しているようにみえますよ。不思議ですね。ほんとに不思議ですね、こわいですね。

稲妻を照明演出するには、ストロボ使用とアークライトの点滅と、水平線に稲妻のパターンを投射する場合と、（次回の「光で描く自然現象」を参照）更に、ステージスポットの点滅、等があります（実はまだ他に方法があるので、それも次回に）

ここでは、ステージスポットの点滅を話しましょう。「イナズマ」は、明るい場面より暗い場面の方が効果的です。「イナズマ」のスポットは、或る意外性を持たせることが必要です。「ああ、これから稲妻が出るぞ」では、少しもたのしくない。夏の日、イナズマが出るのは入道雲（積乱雲）が出てからと

定まっているのですが、舞台上で、積乱雲をみせてから、イナズマでは、時間もかかるし、効果的ではありません。突然、イナズマが光る

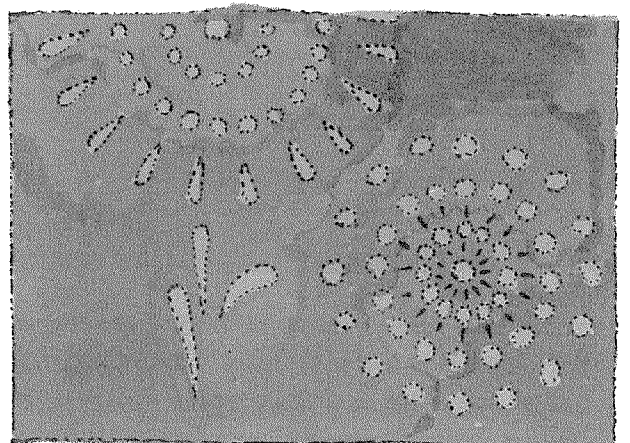
「あっイナズマ！」と言わなくても、イナズマだと判る照明演出が必要。



スポットライトに淡青色のフィルターを挿入するのもよいが、白光でも充分です。他の使用器具が500Wなら、せめて1000Wのスポットを使用して下さい。明るいほどイナズマです。1000Wが使用不能の場合、750W、それもダメならば、よくレンズをふき、電球も磨き（念のため、新しい電球、それもミラー付）スイッチを点滅して下さい、

イナズマの点滅で、大事なことは、効果音の雷鳴より、必ず先に点滅すること。雷鳴が先で、イナズマの点滅があとでは、たのしいあかりが、おかしいあかりになりますよ。

点滅の最後を飾るのは、花火のあかりです。花火をつくるのは、花火の種板、又は35mmのスライドでも出来ます。間接の場合には、照明演出としては、サスペンションスポットにアルミ板で約2cmの直径



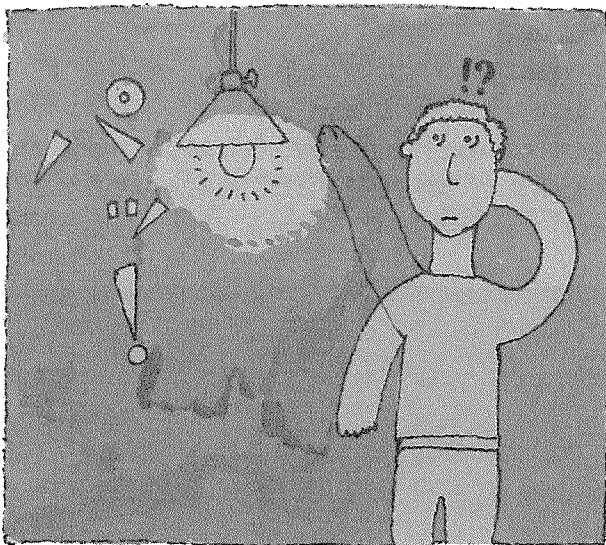
の円の穴をあけて、フィルターを数色貼りつけます。

サスペンションを、背景（主として Horizontカーテン）にあてて、点滅すると、花火の間接照明となります。これは花火の種板や35mmのスライドで投影する場合にも併用すると一層効果的です。又、単独に扱っても観客の想像をかきたたせる効果もありますね。

なお、信号灯や灯台等も点滅の照明演出として、舞台上に登場してきます。基本的には、劇表現に適した点滅のスピード、間隔を考慮することが肝要です。

手動によらないで、自動的に点滅させる場合にはサーモスタットを使用します。家庭用の電機製品に非常に多く利用されています。舞台でも使用出来ませんが、容量の問題があるので、低電力にしか利用出来ません。

さて、次に点灯、消灯の照明演出ですが、電灯を点灯する場合、タイミングよくスイッチを入れれば点灯は成功。ところがタイミングが少しでもはずれると、俳優の点灯した演技のあとで、間の抜けたように、パッと電灯がつく、客席がドッとわく。これがよくあることなんです。プロのあかりやさんは、電灯具の点灯には細心の注意を払います。全神経を集中して、俳優の演技とタイミングを合わせるようにしております。



安全な秘訣を伝受すると、電灯具を不滅のコンセントからダイレクトに接続します。ただし暗転の時に、同時に消灯出来ぬ場合は、デイルバックやトライダックの調光器に接続すると、フェードアウト（溶

暗）することも出来ます。

配電盤の on、off で操作する場合、灯具はキソケットを利用するか、灯具を on の状態にして、俳優の実際の操作で点灯、点滅するように考えて下さい。これは回路を on の状態に接続して、手元のキイスイッチを off にしておき、演技によって on、off の点灯点滅を行う技法です。

更に、デイルバックやトライダックの調光器を使用する場合、マキシマムの 100 の目盛に接続して、フェードアウト（溶暗）や、フェードイン（溶明）の操作をすることが出来ます。

点滅は、必ずしも照明を操作する人だけが行うとは限りません。演技者が直接操作する場合もあるし、舞台関係者（裏方）が操作することもあります。この場合は、回路は必ず on の状態にしておくこと。万一 off の状態にしておくこと、それこそ、いつになっても点灯しないで、幕を下ろすようなことになってますよ、こわいですね。おそろしいですね。

B. 明暗

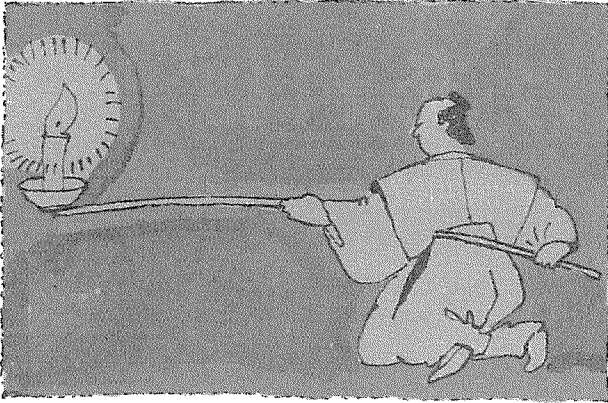
照明演出で、光の明暗は重要であります。専門語では照度などと言ひまして、ルクスが単位として用いられています。舞台照明の明暗をルクスで計ると 50 Lux ~ 3000 Lux まであります。然し舞台照明は、舞台の広さと観客の視点によって、明暗をルクス計で算出するほど簡単ではありません。舞台装置、衣裳によっても異ってきます。

照明演出の明暗をルクスによらず、以下の4項目で考えてみましょう。

1) 照明器具と配置による明暗

単体の照明器具では 60W ~ 1000W の器具が使用されています。フットライト、ボーダーライト、スポットライトでは、演技者の客席に近い位置ではフットライトが明るく見えます。1000W のスポットライトが 20m も離れて照射するのと、30cm の距離の 60W のフットライトが照射するのでは、明らかに 60W のフットライトが明るく見えます。理想的には距離が長くなるほど電力の多い器具が配置されることが望ましい。

むかし、面明り（つらあかり）と称して、演技者の前に差出しのローソクをつけて、俳優の顔を明るくみせたことがあります。映画技法のクローズアップ



ブですが、照明演出にもこのクローズアップの技法をとり入れて、演技者を非常に明るくみせるために、フットスポットライトを使用して拡大した表情をみせることもあります。

演技者を明るくみせるために、ステージスポットライトの効果も必要です。照明器具の配置では、演技者の最短距離にあるのが、フットライトと、ステージスポットです。

2) 色彩による明暗

この場合の色彩は、カラーフィルターを考えてみました。カメラのフィルターでも、適切な光の明暗を加減するために使用されています。まして舞台照明では60種のカラーフィルターで、色彩による明暗を表現します。

明度はピンク、レッド、オレンジ、イエロー、グリーン、暗度はブルグリーン、ブルー、ヴァイオレットの順序です。

光の強弱、明暗は器具の選定とカラーフィルターの選定によって異なる効果があらわれます。光と色彩については別の項で詳述しますが、白色光を最高値とすると黒までの間に無色灰色の系列が出来ます。これが明度ですから、カラーフィルターは、ほぼ明度の基準によって、No.が整理されています。

色を表わすのに単に赤とか黄だけでは正確ではありませんね。そこで、暗い緑とか明るい青とか言う区別ができます。ここでは色調と飽和度について考えてみましょう。

色調の基準は比較的明るい太陽スペクトルの色です。標準色紙ではヴント、ミルトン、ブラッドレー、ブラーゼ等があります。基本になるのはニュートンの7色、赤、橙、黄、緑、青、藍のスペクトル6色と赤紫の計7色で、その他を中間色を言います。

飽和度とは、色の純粹性の事です。カラーフィルターではピンク系のNo.14、15、レッドならばNo.24のように、純粹な色彩を飽和していることを言います。

3) 対象物による明暗

黒いカーテンの前に黒の衣裳を着た人物がいる場合、識別する事が困難です。光の明るさが強くなると初めて人物がいることに気付くので、暗い場合はまるで判りません。このように背景、舞台装置の色彩、登場人物の衣装によって、光の明暗は異ってきます。やはり黒いカーテンの前に白い衣裳を着た人物の場合、暗転中でも識別することが出来ます。

対象物は、材質によっても明暗が異なります。金属製品、ガラス、紙、木材、アクリル、布、等ではそれぞれ光の明暗の多様性があります。又、不透明、半透明、透明によって、明るさ、暗さがあります。

舞台照明の明暗は、舞台稽古でテストすることが必要です。デスクプランだけでは舞台の明暗を作ることは不可能です。明暗は更に光のコントロールによっても異なります。

4) 光のコントロールによる明暗

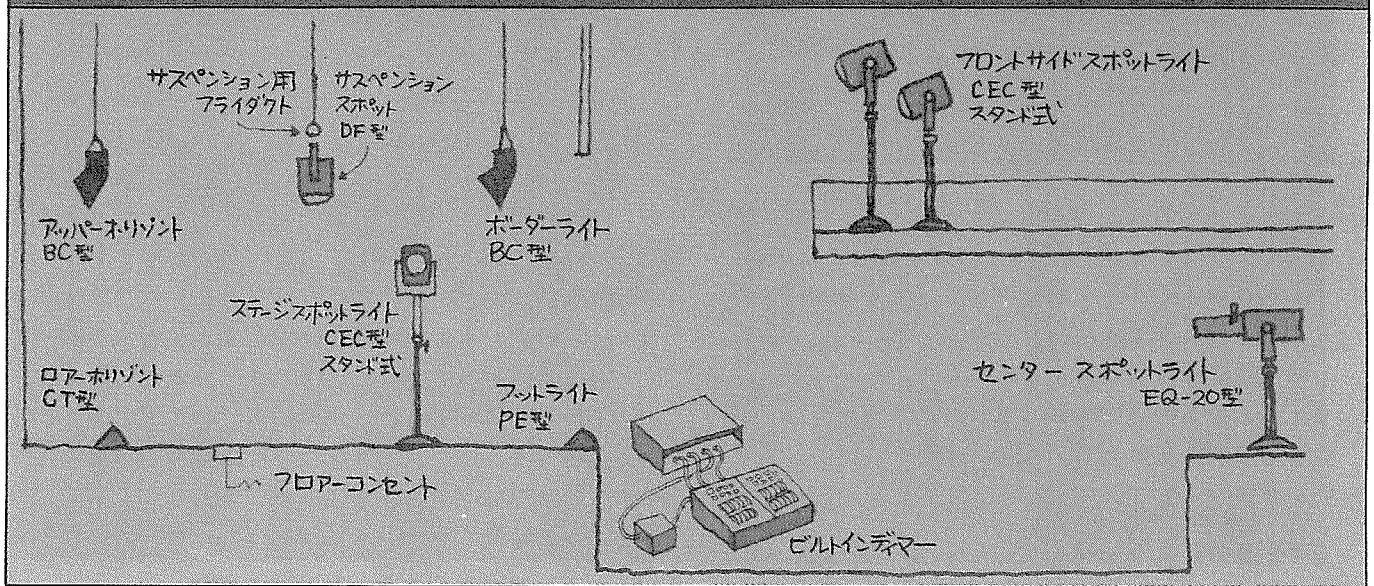
同じ型の500WのスポットライトをA台はマキシマムの100の目盛(100Vとすると)の明るさと、B台は50の目盛(50Vとすると)では、明らかにA台のスポットライトが明るいことが判ります。このように調光によって明暗が異なる場合、全く同型のスポットライトでも、明度の相違が出来ます。実は舞台照明の明暗の基本は、色彩や対象物や器具による場合よりも、調光によって操作されることです。

光を演出するのに、いかに調光(光のコントロール)が必要であるか、光のコントロールがなければ舞台照明は存在しないと言っても過言ではありません。

明暗と関係のあるものに直接眩輝があります。直接眩輝とは、露出した光源を直接、観客に見せ、眩しさを感じさせることを言います。照明演出として、直接眩輝で効果を出す場合もあります。目つぶしなどはこの技法です。裸電球、裸器具が、観客の目にふれると、舞台が非常に見えにくくなるのと、疲れを感じます。これは長時間の上演には不適当ですから、低電力、W数を少なくするか、調光によって電圧を下げるか、薄墨か薄糊を塗って、半透明にするとか、しゃへいして光源を隠すことが必要です。

“予算”これだけあれば…

学校講堂・小ホール向けの舞台照明設備



アマチュアも、プロもいつも泣かされるのが、照明設備の不完全。

とくに、学校の講堂や小ホールでは、電気容量からはじまって、照明器具の不足まで。

しかし、ゼイタクをいえばきりが無い。お金がいくらあっても足りません。

照明設備・照明器具は必要最小限度のものから予算に合わせて、徐々に揃えるのがいちばんです。

400万円の場合

- | | | |
|----|---|-----|
| 1 | ポーターライト (BC型 100W×54灯 3回路) | 1列 |
| 2 | サスペンションライト用フライダクト 10mもの (コンセント20A 16個付 4回路) | 1列 |
| 3 | サスペンションライト用スポットライト (T-1型500W DF型500W各 8台) | 16台 |
| 4 | アップーホリゾンライト (BC型100W×54灯3回路) | 1列 |
| 5 | フットライト (PE型60W×66灯 3回路) | 1列 |
| 6 | ローホリゾンライト (CT型60W×12灯 3回路) | 4本 |
| 7 | フロントサイドスポットライト (CEC型1000Wスタンド式) | 4台 |
| 8 | ステージスポットライト (CEC型500Wスタンド式) | 4台 |
| 9 | フロアコンセント (20A・3口用) | 2個 |
| 10 | センタースポットライト (EQ-20型1000W) | 1台 |
| 11 | ビルトインデイマー デイマートランク (20A×10本) プリバック (プリセットフェーダー10チャンネル×3段) マスターバック (マスター、グループ、クロスフェーダー) | 1台 |
| 12 | 取付工事費 | 1式 |
- (注 総容量 33KW 21回路)

300 万円の場合

| | | |
|----|--|-------|
| 1 | ボーダーライト (BC型 100W×54灯 3 回路) | 1 列 |
| 2 | サスペンション用フライダクト 10m もの (20A 16個付 4 回路) | 1 列 |
| 3 | サスペンションライト用スポットライト (T-1型 500W・DF型 500W) | 各 8 台 |
| 4 | アッパーホリゾンライト (BC型 100W×54灯 3 回路) | 1 列 |
| 5 | フットライト (PE型 60W×66灯 3 回路) | 1 列 |
| 6 | ローホリゾンライト (CT型 60W×12灯 3 回路) | 4 本 |
| 7 | フロントサイドスポットライト (CEC型 1000W スタンド式) | 4 台 |
| 8 | ステージスポットライト (CEC型 500W スタンド式) | 4 台 |
| 9 | フロアーコンセント (20A・3 口用) | 2 個 |
| 10 | センタースポットライト (EQ-20型 1000W) | 1 台 |
| 11 | ディムパック T-15型 | 1 台 |
| 12 | 取付工事費 (注 総容量 33KW 21回路) | 1 式 |

200 万円の場合

| | | |
|----|--|-------|
| 1 | ボーダーライト (BC型 100W×54灯 3 回路) | 1 列 |
| 2 | サスペンション用フライダクト 10m もの (20A 16個付 4 回路) | 1 列 |
| 3 | サスペンションライト用スポットライト (T-1型 500W・DF型 500W) | 各 8 台 |
| 4 | アッパーホリゾン (BC型 100W×54灯 3 回路) | 1 台 |
| 5 | ローホリゾンライト (CT型 60W×12灯 3 回路) | 4 本 |
| 6 | フロントサイドスポットライト (CEC型 1000W スタンド式) | 4 台 |
| 7 | ステージスポットライト (CEC型 500W スタンド式) | 4 台 |
| 8 | フロアーコンセント (20A・3 口用) | 2 個 |
| 9 | ディムパック T-6 型 | 1 台 |
| 10 | 選択プラグ盤 | 1 台 |
| 11 | 取付工事費 (注 総容量 28KW 17回路) | 1 式 |

100 万円の場合

| | | |
|---|--------------------------------|-----|
| 1 | ボーダーライト (BC型 54灯 3 回路) | 1 列 |
| 2 | アッパーホリゾン (BC型 54灯 3 回路) | 1 台 |
| 3 | フロントサイドスポット (CEC型 1000W スタンド式) | 2 台 |
| 4 | ディムパック T-6 型 | 1 台 |
| 5 | 取付工事費 (注 総容量 13KW 回路数 8 回路) | 1 式 |

50 万円の場合

| | | |
|---|--------------------------------------|-----|
| 1 | ボーダーライト (BC型 54灯 3 回路) | 1 列 |
| 2 | フロントサイドスポットライト (CEC型 1000W スタンド式) | 2 台 |
| 3 | 分電盤 L 型 | 1 台 |
| 4 | 取付工事費 (注 総容量 7.4KW 回路数 5 回路) | 1 式 |

◎いずれも電気工事は含みません

◎取付工事費は都内及び近郊を対象とします

◎この価格は昭和50年11月1日現在のものです

MET / カルメン / 大逆光

使っています

(有)CSG 外崎俊彦



マルモのCEC型スポット90台という台数は、一寸とした中劇場の全てのスポット台数に匹敵する。あと、いく台かのベビー・スポットとマシンがあれば、照明器具の設備としては、立派なものである。

*

昨年10月、ニューヨークから、メッツ、すなわち、メトロポリタン・オペラのスタッフが、日本公演の打合せの為に来日した。その席上、照明の責任者、ルドルフ・カントナー氏から、「カルメン」の照明には90台の逆光が必要なので、調達して欲しいと申し込まれた時は、いささかたまげた。一台1キロワットとしても、90キロワットである。しかも、ニューヨークでは、3倍の270キロワットを使用して居り、この逆光は、美術デザインの重要な一部であるから、もし、これが不可能ならば、「カルメン」の上演自体を考え直さなければならない、と脅かして来た。

「不可能なものですか。必要とあれば、なんでも可能だし、なんでもやりますよ」と、こちらもいささか大きく出て、丸茂のカatalogを渡した。実物テストの結果、使用器具はCEC型スポット。台数は1パ

イプ30台吊込み、三パイプ計90台。操作卓は調光可能なもの、と決定した。次に氏が最も知りたがっていたことは、日本公演に際して、メトロポリタン劇場から、4名の照明オペレーターが同行するが、彼等が日本の劇場で出来得る仕事はどの程度までか、という事である。例えば、ステージ・スポットやフォロー・スポット等、実際に器具に手を触れて仕事をして良いか、又は、させてくれるか……をさすが鬼のユニオンと云われるニューヨークから来た裏方の質問である。

(スイッチ・ボード〈調光室〉の操作は一切日本側が行う。サスペンション等吊り込み器具及びフロント・シーリング等の操作、フォーカスは日本側が行う。ステージ・出物関係は、日米合同で行う。アメリカより持ち込みの器具に関しては、アメリカ側がその責任をもって、日本側がその補佐をする。フォロー・スポットは、アメリカ側の指示で、日本側が操作する)以上、簡単ではあるが、通常行なわれている日本の劇場の慣例を説明し、仕事を行う上での分担を明確にした。このことが、後刻、仕事を進める上で大変役に立ち、外国物の仕事で常に起る思い違いや、無駄な神経の使い過ぎ、誤解、等々のトラブルから救われた。これ等

の事で了解がつくと、彼等はさっさと帰って行った。このあたり、さすがアメリカと思わせる。さらりとしたもので、これがヨーロッパなら、相当しつこくねばられたろうにと、ほっとする一方、いささか物足りなくもあり、大丈夫なのかな、と一抹の不安も残った。しかし、彼等が帰国の際に主催者を通して「照明の技術者に、英語の堪能な人を必ず付けて下さい」と言い残して行ったこの一言は、強烈なパンチだった。勿論、専門の通訳は付いてくれるだろう。だが通訳にとって、照明家の使用する裏方言言葉は、もう一つの外国語に近い。「サスペンションで何ですか?」「ローホリ?」「ストリップ?」「ボーダーって、何かの境界線のことですか?」等々。これらを一応とどこおりなく通訳出来る様になる頃は、もう、その公演スケジュールも終りに近づいている。特に今回、メッツの公演は、連日上演する作品が変わり、しかも、昼「カルメン」夜「椿姫」といった、変則ダブルヘッダーが何日かある。ほとんど休みなしの約三週間、数名の通訳が頼みの綱では、彼等が不安に感じるのも理解出来る。だが、現在の日本の照明技術者の中で、**Can you speak English?**と 言われて、**Yes I can speak** と言い切れる人は、何人いるだろうか。**Yes, but just a little** がせいぜい。私等、それすらあやしい。幸い、私の古い照明の仲間が、高校の英語教師の資格を持っているのを思い出し、急拠陣営に参加してもらい、体裁を整えることが出来た。

*

この5月9日深夜から、いよいよメトロポリタン・オペラ日本公演三作品(椿姫、ボエーム・カルメン)の道具合せが、NHKホールで開始された。28尺、30尺の張り物が立ち、組み合わせられ、みるみるうちに、それらの装置で、舞台のほとんどが占領されてしまう。劇場の一文字も袖幕も何処かへ消えてしまい当然、サスもボーダーもどンドン飛ばされてしまう。先発第一陣の美術、道具関係者より数日遅れて、ルドルフ・カントナー氏が再び来日して、照明合せは、「カルメン」からスタートした。

四幕通し、バックは全て黒幕。問題の90台のスポット(通称カルメン・ライト)は、舞台奥のパイプ3本に、各30台ずつ吊り込み、フォーカスは全て30度の広がりには統一固定。方向は全て一定、すなわち奥より前方へ逆光に固定し、バックの黒幕より浮き

上る逆光の線が、全て、同じ方向光線でなければならない。要するに、90台の光の筋が、全く乱れたり交錯したりしてはならない、という注文である。これは仲々の大仕事で、舞台面に線を引き、それに合せて基本的にフォーカスと方向を定める。その後パイプを飛ばして、プレをタワーに乗って修正していく。全てのフォーカス、シュートの決った大逆光の舞台に立つと、さすが、頭髮がチリチリと熱く感じる。舞台一面に敷きつめた、毛足の長い黒のカーペットが、逆光で白く浮き立ち、セットのしっくい白い壁面と、ほとんど同じ調子になる。セットもデザインした、チェコの美術家、ジョゼフ・スボダボ氏の照明プランは、正に、光と陰で、この大逆光が生命線であった。第一幕は全てW明り。第二幕、酒場は、ブルーの基本明りに99ヶの灯入れしたランタンを、空間一杯に飾り込んだ木製ブラインドに吊り、いわゆるランタン明り。第三幕、山間の荒地は、フロントからスライドで月光の木洩れと、わずかなブルーの押え。第四幕闘牛場の入口は、逆光のWと、前明りのWのみ。クライマックス、ホセがカルメンを刺し殺ろすと、前明りが消え、逆光の中に、呆然と立つ黒い衣装のホセのシルエット。その足元に、ひっくり返り倒れている、純白衣裳のカルメン。この対比が、実に見事で美しく、幕切れの照明としては、卓越したものであった。それにしても、アメリカでは、逆光の光量をこの三倍も使っているという。

デザインしたスボダボという美術家は、一体チェコの、どの劇場から来た人か、と、メッツのチーフ・オペレーターに聞いた所、「多分気違い病院から来たのだろう」と言って、ニヤリと笑いウィンクした。この様な、とてつもないアイデアには、その抜群の効果は別として、彼等もいささか、へきえきとしている様子が伺えて、面白かった。

*

全てのスケジュールが終了した6月14日の深夜、大阪フェスティバル・ホールのロビーで日米合せて150名からのスタッフが缶ビールを抜いて、予想外の成果を祝った。皆、興奮し、感激し、感謝し、誰彼となく立ってはスピーチをして、皆はそれに拍手したり、ひやかしたり、笑ったりした。しかし、その場に1人の通訳もいないことに、誰1人気が付いていなかった。

GORO ON STAGE

(歌謡ショーの照明)

総合舞台 伊賀 勝己

舞台照明を志すアマチュアの皆さんに、感覚的な仕事である照明のプランニングを、どう計算して完成させていくか、私の経験をとおしてお話したいと思います。

舞台照明といっても、「歌もの」例えば演歌やロック、ミュージカルなどの興行物があれば、あまり収益を気にしない、例えば演劇などの自主興行物があり、おのずからテクニックも変わってくるのですが、全体に共通する基本的な事柄をあげていきましょう。

テクニックの話になる前に、ひとつ念頭におきたいことは、「照明」は舞台では決して主役でなく、あくまで出演者を引き立たせる、あるいは舞台で展開されるドラマを、見る人に、より深く印象づけるための、いわば補助的な役割であるということです。

それでは、舞台照明の「イロハ」を実例を掲げながら説明していきましょう。

今回の事例は、7月17日から始まった、野口五郎(歌手)の「GORO ON STAGE」からです。

●テーマ色を決める

「歌もの」であれば曲を聴くか符面を読む、また「演劇」であればシナリオを読んで、最初にテーマになる色を決めます。

今回は「白」をテーマに選びました。この「白」というのは、白熱電球から出るそのままの色のことです。

夏だから「白」という直感的な発想です。

この五郎のステージは、「ロック」が非常に多く私の場合、これまでは「ロック」を表現するのに、多く紫で表現してきたものですから、その傾向をたまには変えてみようという、単純な理由からです。

ステージのあらゆるところに「白」を駆使しながら、明かるいもの、あるいは悲しみなどを表現しようと試みました。

この色の決め方は、暗い曲だから青、明かるい曲だからピンクや赤といったような、色そのもののイメージに固執することは全くありません。どうという決まりはないので、照明を演出する皆さんの感性に任せる、といったところです。

●補助色について

さて、テーマ色が決まったら、次はそれを引き立たせるための補助色が必要になります。この補助色は、ムードを変えるために役立ちます。

「この曲は赤だ!」と思ったとき、補助色を「青」にした場合と「黄色」にした場合とでは、ずいぶん印象が変わってくるものです。

ですから、逆にいうと補助色を決める場合は「シーン」を考えながら、ということになります。

五郎のオリジナル「甘い生活」、この歌は過去に女性との楽しい生活があって、現在ははじめにひとりぼっち、というような内容ですが、これを私がどのように表現したか、というと、光の明暗を利用しました。

すなわち、過去の楽しい思い出は、補助色を含めて華やかにパッと明かるく、そして現実の寂しい境遇にたち返ったときは照明を暗くして、不安定な孤独の感じを、といった具合です。

加えれば照明によって時間の推移も動きも表現できる、ということですね。

●決めた色をQシートにするまで

五郎のステージの場合でいいますと、「オープニング」はナマ、すなわち「白」にしました。その他の色については、演出家の要求もあり、それをくんで作成したわけです。

まず、Qシート(照明の台本)を作ります。それを、通しのリハーサルのときに、ショーの流れを見ながら必要に応じて調整しつつ、完成したシートを

仕上げます。

Qシートが完成したら最後の打ち合わせがあってそれから本番に入ります。

本番のときは、そのQシート通りに行います。というのは、プロの場合はアドリブを入れないからです。アマチュアの方も、台本通りにやった方がよいでしょう。

ただし、モダンジャズの場合、アドリブはプロでもやります。つまり、他のショーのように、照明を計算づくめでやらない場合が多いからです。

さて、このQシートを作るときの注意を申し上げます。

照明をフルに活用したときに、舞台が「明かるくなる」ということが、照明の基本条件です。暗くするのは、消せば消すほど暗くなるのですから簡単です。特に、歌謡ショーのような場合、この条件を欠くことはできません。

また、「観客の目を疲れさせないこと」が掲げられます。

●色の使いかたについて

色の使い方とひとくちに言っても、何通りかの方法があり、それらを組み合わせることによって、いろいろなことが表現できます。色そのものを変化させる、速さを変える、明暗を使う。それらの方法によって「動き」や「時間」すなわち過去とか現在、あるいはいわゆる「ムード」の変化を楽しむことができます。

五郎のショーには、そのどれも活用しました。

曲によって照明の「動き」が変わることもありますし、照明を動かすことによって出演者を動かすこともできます。

「ムード」の表現では、従来ですと、スローのものには青、「クイック」にはピンクやアンバーというように、ある程度のとり決めがありましたが、現在ではそのようなことを気にする必要はないと思います。

大切なことは、テーマ色をどのように、その曲に合ったように使うか、ということにつきるといってよいでしょう。

ですが、「歌謡ショー」のような場合には歌手を美しく見せることが基本です。自分が一番感じた色は、歌手にあてることをさけて水平線に向ける

ことがコツです。そうしないと、出演者のよさを殺してしまうことになるので注意しましょう。

また、美しすぎる色はステージ全体をつぶしてしまいます。

ついでにいうと照明のテクニックとしてこんなこともあります。

すなわち、ステージの中で盛り上げたいシーンというのは必ずあるものです。そのために、他の部分をいいかげんに処理します。全体の流れを見てヤマ場を考えた場合に、これはよく使う手なのです。

逆にいうと、時には手を抜かないと観客がつかれてしまうというわけです。

●効果器について

効果器の話をしてしましよう。

私個人の好みからいうと、あまり使いたいのものではありません。むしろ、色を使わないショーを実現してみたいとさえ思っているのです。しかし、アマチュアの場合ですと、使った方が効果的なことは確かですし、観客も喜びます。

いうまでもなく、効果器の利点は「ふん囲気作り」が簡単だということです。

ストロボは効果器ではありませんが、出演者の動きをおもしろく見せる効果があり、また衣装替えなどの早替わりをするときのドン帳の役割りを果たして便利です。

私は今回、五郎のステージではこの部分を「暗転」にして行いました。

「暗転」は、明かるくするとき、一時にそろわなければ見苦しいことになります。出演者と照明スタッフとのタイミングを合わせるのがなかなかうまくいかないのですが、劇場などには「インカム」の設備がありますからフルに利用することです。

また、効果器は水平線に向けて使用するものです。

五郎のオリジナル「ひとりぼっちの栄光」では、少年の心の悩みを、赤と白の、モヤモヤと動く効果器を使ってムードを出しました。

私のテーマ色の決め方でもお気付きのように、皆さんに、まず進言しておきたいことは「あまり意匠をこらさないこと」で、感じるままに淡々と組み立てていった方がいいということです。このこともまた、ひとつのテクニックであるといえるでしょう。

講習会のお知らせ

“ディムパックとトライダックの正しい使い方”

講師／牛丸 光生

主催／丸茂電機(株) (株)東京舞台照明

後援／日本照明家協会

●日時 昭和50年12月19日(金) 13時～16時

●場所 千駄谷区民館 渋谷区神宮前1-1

(国電原宿駅 坂下口下車徒歩4分)

●内容 1. 舞台照明の基礎知識と応用
2. 舞台照明の実際(仕込みから本番まで)

* 入場無料

* 会場の都合がございますので、あらかじめ東京舞台照明又は丸茂電機まで電話でお申し込みください。

新刊書あんない

彩光社版

「やさしい舞台照明入門」

牛丸 光生 著

●発行／彩光社

〒170 東京都豊島区巣鴨

1-1-8 大和マンション101

TEL 03-946-0805(代)

●定 価／¥ 2,000 (B5版 160頁)

マルモライティングニュースに連載されて、皆さんにおなじみの「やさしい舞台照明入門」が1冊の「本」になりました。不十分なところに補充して、舞台照明の入門書としてはほぼ完全な内容といえます。イラスト・図面・写真を豊富にとり入れて、アマチュア“照明マン”にもわかりやすく配慮されています。いちど手にとってお読みになってみては？

* お申込み、お問合せは

丸茂電機 TEL (03) 252-0321

東京舞台照明 TEL(03)404-2611 まで…。

舞台照明についての御相談は
下記の専門店でどうぞ
照明の専門家が、
丁寧に御説明致します。

東京営業所 東京都千代田区神田須田町1-24
TEL(03)(252)0321(代) 千101
名古屋営業所 名古屋市中区栄4丁目1-1(中日ビル)
TEL(052)(261)1111(225) 千460
大阪営業所 大阪府北区神山町3-2
TEL(06)(312)1913 千530
山梨営業所 山梨県中央区巨摩郡竜王町西八幡
TEL(05527)(6) 2421 千400-01

●マルモ製品についての御問合せは

(株)東京舞台照明 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-51-4
TEL(03)(404)2611 千151
大阪市北区大工町12(駒村ビル)
TEL(06)(353)1806 千530
ほりぞんとあーと 札幌市中央区南4条西8丁目
TEL(011)(221)3101 千
北電力設備工事(株) 札幌市中央区南2条西12丁目
TEL(011)(241)3911 千060
盛岡舞台総合研究所 盛岡市南青山町11-14
TEL(0196)(47)0736 千020
(株)共 立 東京都渋谷区代々木5-40-13
TEL(03)(469)1501 千151
(株)東海舞台 静岡市泉町7-12
TEL(0542)(82)2575 千420
若尾総合舞台研究所 名古屋市千種区大島町3-45
TEL(052)(763)0719 千
(株)篠本照明 広島市霞町4-296-15
TEL(0822)(53)7246 千734
四国照明サービスセンター 徳島市中常三島町3丁目4-2
TEL(0886)(54)2414 千770
福岡市民会館サービスセンター 福岡市中央区天神5-1-23
TEL(092)(751)6474 千810
ユニーク・アートステージ 大分市金池町2丁目1-25
TEL(0975)(34)9390 千870

<編集後記>

■だいぶ長い間、お休みしていましたが、装幀を改め再出発します。今回からは、内容の程度を少し進め、舞台照明の技法と実際に重きを置くようにしました。“やさしい舞台照明入門”から、舞台照明技法へとステップ・アップ、更に、プロの第一線の照明家の方々には、実際の舞台に於ける照明について、様々な角度から、寄稿していただく予定です。楽しみながら、実のある読み物として、ライティングニュースは再出発です。長く発行しつづけられる様皆様の御支持をお願いします。■企画が6、7月に行われ、発行が11月になってしまいました。内容に若干季節的なズレがありますことをお詫びします。(編集子)

発行 丸茂電機株式会社

東京都千代田区神田須田町1-24
千101 TEL(03)(252)0321(代)

製作 キャピタル企画
(不許・複製)